

びろっば

Vol. 447 2023. 10

病院体験ツアー 開催

表紙の写真



日本医療マネジメント学会
高知県支部学術集会 主催

医療情報

難治性潰瘍に再生医療を〈PRP療法〉

～新シリーズ～ すまいるナース通信

近森病院

近森リハビリテーション病院

近森オルソリハビリテーション病院

からのお知らせ

11月23日(木)は通常診療を行います。

第19回 日本医療マネジメント学会 高知県支部学術集会

地域医療のニューノーマル

2023年 8月27日(日) **会場** 高知市文化プラザ
かるぽーと



地域医療のニューノーマルを皆で

会長／近森病院 院長 **川井 和哉** かわい かずや

この度、第19回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会を、高知市文化プラザかるぽーとにおいて開催致しました。現地開催は久しぶりでしたが、335名の参加があり、ポストコロナの節目となる会となりました。

新型コロナのパンデミックにより、高知の地域医療の問題点が一気にあぶり出されました。その一方で、非接触デバイスの開発やリモート診療の進歩など、医療DXの発展も著しいものがありました。高知県の实情にあった医療提供体制の構築が求められており、学会のテーマを「地域医療のニューノーマル」とさせていただきます。

当学会が扱うテーマは、クリティカルパス、医療安全、感染対策、褥瘡対策、栄養管理、

NST、地域連携、リハビリテーション、情報管理、教育、病院運営、組織運営、チーム医療、働き方改革、患者サービス、看護業務、健診業務、災害医療、臨床倫理など非常に広範囲であり、参加対象も全ての医療関係者です。これからの地域医療を支え発展させるために、皆で成果を出し合い議論することができました。

当院からは最多25演題の発表があり、活発な討議や顔の見える交流がおこなわれました。運営は全て当院のスタッフでおこなわれ、スムーズな運営と対応に、役員の方や参加者からお褒めの言葉をいただきました。現地開催の良さと近森病院のチーム力の素晴らしさを改めて感じた学会でした。

特別講演

「東京オリンピック ソフトボール金メダルは
いかにしてもたらされたか
～チーフトレーナーの視点から考える健康とは(鴻江理論)～」

鴻江スポーツアカデミー 代表 **鴻江 寿治** 先生
アスリートコンサルタント こうのえ ひさお



▲ 講師の鴻江先生



▲ 鴻江先生と鴻江スポーツアカデミースタッフの皆さん



▲ 会場の質問者を舞台上に招き、体の動かし方を実演。

● ランチョンセミナー



近森病院 循環器内科
科長
菅根 裕紀



筑波大学 医学医療系
脳卒中予防・治療学講座
早川 幹人 先生



GEヘルスケア・ジャパン株式会社
エッジソン・ソリューション本部
セールスコンサルタント
一政 雄輔 先生

● 一般演題 座長



近森病院 臨床栄養部
管理栄養士
谷口 梨奈



近森病院 リハビリテーション部
理学療法科 理学療法士 主任
伊藤 希

● 演者

※役職名省略



近森病院 管理栄養士
田部 大樹



リハ病院 管理栄養士
片瀬 理美



近森病院 管理栄養士
溝渕 智美



看護学校
平瀬 節子



看護学校
西本 清香



オルソ病院 看護師
中谷 明未



リハ病院 看護師
岡部 美枝



総合心療センター ソーシャルワーカー
植木 美佐



近森病院 看護師
高橋 奈智



近森病院 薬剤師
筒井 由佳 ※森塚亮太から
当日、変更



近森病院 事務
大中 崇



近森病院 臨床検査技師
鈴木 結香



総合心療センター 薬剤師
田上 浩子



近森病院 臨床検査技師
島崎 真由



近森病院 看護師
佐竹 花



近森病院 診療放射線技師
林 憲司



リハ病院 理学療法士
江口 智博



近森病院 診療放射線技師
西田 和弘



近森病院 作業療法士
光永 哲



近森病院 看護師
池澤 友朗



近森病院 看護師
濱口 富代



近森病院 看護師
近森 幹子



近森病院 看護師
竹内 愛理



オルソ病院 看護師
山崎 成美



オルソ病院 看護師
関 惠里

当院の発表は、最多
25 演題！

事務局の企画課を筆頭として、ICT推進課や広報など、スタッフ計34名が裏方として学会を支えた。またその他、査読委員21名のスタッフにもご協力いただいた。



お疲れさまでした。
川井和哉

難治性潰瘍を早く治す!

ピーアールピー

PRP療法

～Platelet Rich Plasma(多血小板血漿)～

9月
開始



近森病院 形成外科 部長
杉田 直哉 すぎた なおや

難治性潰瘍に対して、キズの治りを早くする「PRP療法(自己多血小板血漿注入療法)」を開始しました。患者さん自身の血液から血小板の成分だけを高濃度で抽出し、患部に注射する『再生医療』です。

田中将大選手が行ったことでも有名なPRP療法

PRPはPlatelet Rich Plasmaの略です。日本語では「多血小板血漿」です。

1950年代に欧米の研究者がPRPを開発し、その後、歯科のインプラント治療にPRPが応用されました。2000年代になると、スポーツ医学の領域にもPRPが使用されるようになりました(ヤンキースの田中将大投手が右肘の靭帯部分断裂にPRP療法を行ってわずか2か月半で復帰したのは有名ですね)。

「成長因子」が創傷治癒促進に関与

患者さんの血液を20ml採取し、遠心分離機を用いて血小板だけ

が高濃度で浮遊した血漿をつくります。それがPRPです。血小板の中には「成長因子」と呼ばれるサイトカインが多く含まれており、血管新生やコラーゲン合成など創傷治癒促進に関与します。特に上皮成長因子(EGF)は、細胞表面の特異的な受容体に結合して上皮細胞を増殖させます。このPRPを患者さんのキズに直接塗布または注入することでキズの治りを早くすることができます。

週1回×4週間で1クール

2020年4月にPRP療法が難治性皮膚潰瘍の治療として保険収載されました。PRP療法は週1回の治療を4週間行って1クールとなります(キズの治り具合により2クールまでOK)。足の潰瘍や褥瘡など、これまで治療が難しかった難治性の創傷に対する新しいオプションとして期待できます。

PRP療法の流れ

① 採血

血液を20ml採取します。

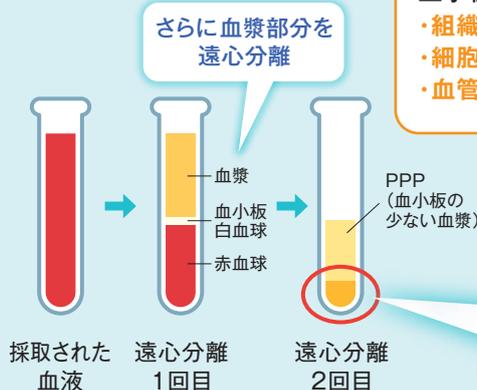


② 加工

血液を2回に分けて遠心分離し、高濃度のPRPを抽出する。



約
30分



血小板に含まれる「成長因子」が

- ・組織の修復を促進!
- ・細胞分裂や増殖を活性化!
- ・血管の新生を促す!

PRPが完成!
血小板が濃縮された血漿

③ 施術

患部に直接、塗布または注入する。週1回×4週間で1クール(キズの治り具合により2クールまでOK)。



PRP療法 開始

● 治療経過



8日後



約2か月後



約4か月後

※画像提供: 多血小板血漿 (PRP) 療法研究会HPより

タビ TAVIの世界的エキスパート Dr.Tang 来院

2023年7月27日

近森病院 心臓血管外科 主任部長 入江 博之 いりえ ひろゆき

年間500例施術、手技開発も行うエキスパートが来院!

Dr. Gilbert H Tangはニューヨークセントラルパーク近くの巨大病院Mount Sinai病院の心臓血管外科教授です。TAVI(カテーテルによる大動脈弁置換術)の領域では新しい手技を2つ開発したことで知られ、年間500件以上のTAVIならびに僧帽弁クリップなどをこなしておられます。実は7年前にまだ前任地のWestchester病院におられる頃にチームで手術見学に行きました。

今回日本の学会に招待されたことを知り、「当院に立ち寄って欲しい」とお願いしたところ、「喜んで」とのお返事を頂きました。日本到着の朝、その足で高知においで頂き、彼が開発した手技を用いるTAVI 2件をご指導頂きました。

手技のアドバイスを若手医師へ、次の治療成績向上に繋がるコツを多職種へ伝授

様々な注意点や手技のスピードなどについて細かなアドバイスを若手医師達に頂きました。また症例の合間には約1時間、手術手技の解説や、彼が開発したCusp overlap法や3 O'clock法といった次の治療成績向上に繋がるコツなどを伝授して頂きました。

当日東京に戻られ、翌日からの2日連続の学会に参加されました。とてもハードなスケジュールの中、高知までおいでくださったことに感謝しております。

今回のご指導を踏まえて当院でのTAVI手術のレベルアップが図られ、患者さんに貢献できることを喜んでおります。



▲ ヘリポートにて、Dr.Tangと一緒に。(左:筆者)



▲ 手術の合間に講義も。



写真左/近森ハートチームと。写真右/循環器内科(左)と心臓血管外科(右)の若手医師へ直接指導(中央がDr.Tang)。

資格取得



日本リハビリテーション医学会 指導医

環境と基準

近森リハビリテーション病院 青山 圭
リハビリテーション科 科長 あおやま けい



リハ指導医は、専門医取得後の一つの目標であり嬉しかったです。指導頂きました和田先生をはじめ、当院や以前の研修先である浜松市リハビリテーション病院の皆様に感謝申し上げます。

私が指導医になり実践したいことは、環境作りと基準設定です。指導するというより、共に学ぶプロセスを大切にする。任せた仕事のフォローはしっかり

行うなど、私がしてもらったように、充実した研修環境となるよう支援させていただきます。基準に関しては、少しだけコンフォートゾーンから出る課題を専攻医に提案し、共に取り組んでいきたいです。

指導医とはいえ私自身がさらに努力をして、新たな知識や経験を積んでいく必要があると思いますので、今後とも宜しくお願いいたします。

論文掲載

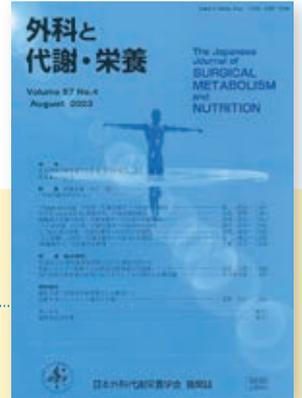
初めての論文投稿とアウトプットの重要性

近森病院 臨床栄養部 管理栄養士 田部 大樹 たべ だいき



論文名 75歳以上の胃切除術後患者における術後入院中の摂取エネルギー量低下と長期的な体重減少の関連

掲載誌 「外科と代謝・栄養」2023年8月発行 第57巻 第4号 (日本外科代謝栄養学会 発行)

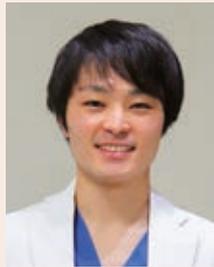


学会受賞

第29回 日本心臓リハビリテーション学会 学術集会

第29回 日本心臓リハビリテーション学会 学術集会
ポスターセッション30 **優秀賞受賞**

演題 フレイル症例に対する吸気筋トレーニング(IMT)の使用経験



初めての県外での学会発表

近森病院 循環器内科 山口 宗祥
やまぐち ひろよし

これまではコロナ禍の影響もあり、リモートでの学会発表ばかりでしたが、今回は初めて県外で発表する機会をいただきました。楽しみと同時に不安や緊張がありました。応援に来ていただいた川井先生を始め、たくさんの先生方やコメディカルの方々に支えられ、優秀賞をいただくことができました。

今回の経験や学んだことを今後の診療に生かしながら、患者さん方に寄り添う医療を目指し、引き続き努力をしていきます。



▲ 顔出し看板から山口医師、後列右端森本PT。



第29回 日本心臓リハビリテーション学会 学術集会 **優秀賞受賞**

演題 運動誘発性肺高血圧症例に対する外来心臓リハビリテーションでの関わり

心不全再発予防に日々向きあって

近森病院 リハビリテーション部 森本 和加
理学療法科 理学療法士 もりもと わか

この度、日本心臓リハビリテーション学会学術集会において症例発表をし、優秀賞を頂きました。日々悩みながらも心不全患者さんに向きあい、より良い関わりとは何かを多職種で模索してきたことが評価して頂いた様に思い、とても励みになりました。

学会では、ご意見やご質問も頂き、他施設の様々な取り組みを知り、新たな課題や知見も得られ、とても有意義な時間を過ごせました。この受賞を励みに、より一層努力して参りたいと思います。



2023年7月15〜16日 / 横浜市

**胃切除術後の体重減少は、
入院中の摂取エネルギー量不足が
関係**

胃切除術を受けられる患者さんにとって、術後の体重減少はQOLや治療成績に大きく関わる問題です。高齢の患者さんも増加しており、より体重減少が与える影響は大きいと思われていますが、胃切除に伴い食事摂取が困難となる症例も少なくありません。

そこで今回の論文では、75歳以上の胃切除術を受けられた患者さんでは、入院中の摂取エネルギー量が不足している場合に術後、

長期的な体重減少を呈しやすいことを報告しました。

**病棟常駐のモデルケースに留まらず、
栄養管理の効果検証を形として
発信する**

論文として形に残す上で、データの解析やグラフの作成方法、文章の展開など学会発表とは異なる大変さがありました。ご指導頂いた宮島部長、塚田先生のおかげで投稿までたどり着くことが出来ました。

今回の論文を執筆している中で、論文を

書くということは形として残ることであり、他施設などへの発信に繋がる重要な手段であると感じました。

管理栄養士の病棟常駐のモデルケースとして「栄養の近森病院」と、よく管理栄養士の中では言われることが多いです。ただ病棟常駐のモデルケースとなるだけでなく、学会発表や論文の執筆などを通じて、栄養管理による効果を検証していくことも「栄養の近森病院」としての役割ではないかと考えており、今後も積極的に学会発表や論文の執筆に取り組んでいきたいと思っています。

第128回 日本内科学会四国地方会

2023年7月23日 / 高知市

第128回 日本内科学会四国地方会
循環器部門 **研修医奨励賞受賞**

演題 | SGLT2阻害薬中止後にも関わらず糖尿病性ケトアシドーシス関与が疑われた心停止の1例



▲ 指導医奨励賞受賞の細田科長(右)と一緒に。



2度目の受賞 努力は実を結ぶ

初期研修医 2年目 高本 琴子 たかもと ことこ

今回の症例は、病態を理解するのが難しく、様々な論文を参照し、最新の知識を得るために、多くの時間を費やしました。発表も、短い時間で多くの情報をわかりやすく伝えるために工夫しました。何度も添削していただき作り上げたものだったので、努力の成果が得られ、自信に繋がりました。

お忙しい中、ご指導いただいた細田先生をはじめ、循環器の先生方には大変感謝しております。今後もこの経験を生かして精進していきたいと思っています。



第128回 日本内科学会四国地方会
消化器部門 **研修医奨励賞受賞**

演題 | 腹部動脈瘤破裂を来した正中弓状韧带圧迫症候群に対して、待機的に腹腔鏡下韧带切除術を施行した1例



▲ 指導医奨励賞受賞の山本医師(右)と一緒に。



初めての学会発表

初期研修医 1年目 野村 真緒 のむら まお

研修医の学会発表が盛んなことは、近森病院で研修したい理由の一つでした。消化器内科部長榮枝先生からお話をいただき、憧れの先輩方に一歩近づける気がして嬉しかった事を覚えています。

学会を通して上級医の先生方の教育熱心さを改めて感じ、当院で研修できて幸せに思います。特に指導医の山本萌夢先生には直前までご指導いただきました。これからも初心の気持ちを忘れずに頑張ります。ありがとうございました。



リハ病院 オープンホスピタル 開催

2023年7月30日

近森リハビリテーション病院

近森リハビリテーション病院にて、7月30日にオープンホスピタルを開催しました。

当日は、高校生を中心に27名の方がご参加くださいました。感染症対策のため、病棟見学、嚥下食の試食体験は行わない等、以前と同様の開催とはいきませんでした。リフト体験や筋トレ・InBody体験など、実際の機器を使った体験ブースが人気でした。

アンケートには「この病院へ実習に来られるように頑張りたい」との感想をいただき、久しぶりに開催できた喜びと参加者たちが医療職を目指すきっかけ作りになったかな、と実感できる嬉しい一日となりました。



車椅子+とろみ茶試飲



喀痰吸引



軟膏の調剤

55年目の節目に

2023年8月14日

近森病院総合心療センター

近森病院の中で精神科が発足して55年目です。『チーム医療を展開するスタッフの慰労とこれから』として「何かイベントを!」と考えました。大きなイベントはできないけれど、「このまま流れてしまうのは…」と焦りました。あれもこれもしたい足し算と、現実からの引き算で『ちょっとだけやる企画(お寿司)』にしました。

当日は、スタッフからの笑顔の反応が多かったことで「やってよかった」を実感しました。次の企画は、しばらくお待ちください。



第9回 心臓血管 ウェットラボ

2023年 11/26 (日)

9:00~16:00

会場/近森病院 管理棟3階 大会議室

テーマ 心臓の解剖と心臓血管治療

実習項目 (予定)

解剖全般・病理・PCI・心エコー検査・アブレーション
大動脈ステントグラフト・冠動脈バイパス術
人工弁置換術・経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI) など

申込期間

申込はこちらから →

~10/16(月) 正午まで

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

https://www.chikamori.com/news/asset/184_20230518.pdf





すまいる♥ナース通信

専門看護師

近森会グループでは、専門看護師や認定看護師をはじめ、特定行為研修修了者や心不全療養指導士など様々な資格取得者や研修修了者が活躍しています。このシリーズでは、このような看護師たちが患者さんにとってよりよいケアを目指して頑張っている活動を紹介していきたいと思ひます。

「倫理コンサルテーションチーム」立ち上げ

～倫理上の課題についての不安や対立の速やかな解消のために～

10月～

近森病院 看護部 看護師長 池畠 真由美
急性・重症患者看護専門看護師 いけばたけ まゆみ



10月より、倫理コンサルテーションチームが立ち上がります。
倫理コンサルテーションとは、職員が直面した臨床倫理上の課題について相談を受け、可能な限り早急に多職種チームで検討し、不安や対立を解消するための助言や支援を行う仕組みのことで、そして、倫理コンサルテーションチームの役割は、臨床現場での倫理的課題への対応能力の向上をサポートすることです。
これらは、臨床現場において患者中心の医療や尊厳を守る中で生じる、日常的な倫理問題による不安や葛藤を、関わる職員が抱え込んだり、適切な医療・ケアにつながらないなどの現状から必要と

されてきました。
「チーム医療」を強みとしている近森病院が、より対話を通してチーム力を高め、患者中心の医療(Patient-centered care)に取り組めるよう、一緒に考えていきましょう。
依頼は、【電子申請】からお願いします。

※相談方法など詳細は、各部署に配布しているポスターをご覧ください。

倫理コンサルテーションチーム

- 医師／中岡 大士(医療安全委員会委員長)
- 医療ソーシャルワーカー／西本 奈加
- 看護師／
在宅看護専門看護師：山本 詩帆
精神看護専門看護師：久保 博美
急性・重症患者看護専門看護師：池畠 真由美
急性・重症患者看護専門看護師：齋坂 美賀子
老人看護専門看護師：明神 拓也
慢性疾患看護専門看護師：高橋 奈智



【働き方改革】NO残業デーの開始報告

近森会グループ 統括看護部長 岡本 充子 おかもと じゅんこ

看護部では、働き続けられる職場環境を整えていく取り組みとして、バースデー休暇に続き、6月より毎月第1金曜日をNO残業デーに決め、残業時間を減らす取り組みを開始しました。NO残業デー当日17時に“アンダー・ザ・シー”の音楽でお知らせがあります(一部部署除く)。まだ始めたばかりで残業時間に変化はみられませんが、残業を減らし定時で業務が終わるための一つのきっかけとし、業務改善も進めていきたいと思っています。他職種の皆さんのご協力も必要ですので、よろしくお願いいたします。



看護部 NO残業デー

6月～ 毎月第1金曜日



9月1日(第1金曜日)、本院打刻機前にて17時から約30分撮影。ご協力、ありがとうございました!

第8回

6年ぶりの開催!

病院体験ツアー

職員のお子さん向け

2023年8月3日・4日



将来の進路を考える手助けに

近森病院 消化器外科 主任部長 塚田 暁
つかだ あきら

8月3日・4日に中学3年生から高校3年生を対象にした病院体験ツアーを開催しました。今回は6年ぶりでしたが、8回目の開催になります。11部署を2日間で回り、それぞれの部署の仕事にシミュレーターや実際に使用している医療機器を用いて体験してもらいました。

病院では多くの職種の方々が働いていますが、外来受診だけではわからない職種もあります。子どもたちが様々な職種の仕事を体験して、医療へ興味を持ってもらえたと思います。初日は皆さん緊張していましたが、2日目の最後は目をキラキラとさせ笑顔が見られたので、充実した体験ができたのではないのでしょうか。自身の将来をイメージする一助となればと思います。

最後に、各部署の職員の方々へ、忙しい日常診療の間に協力いただき感謝いたします。



救急医療の現場

ER

- ・医師から救急現場の説明
- ・エコー（超音波検査）体験
- ・人形を使った心臓マッサージ体験（BLS）
- ・Drカーで近隣一周



循環器内科

心臓カテーテル治療

・シミュレーターを使用したカテーテル治療体験

消化器外科

腹腔鏡手術体験

・手術室での腹腔鏡体験



形成外科

外科基本手技

- ・シミュレーターを用いた縫合手技体験
- ・陰圧創傷治療体験



いろいろなお話を体験を通して改めて医療職に就きたいと思えました。2日間、とても楽しかったです。ありがとうございました！

たくさん体験に将来のことを考えるきっかけになりました！

この機会がなければ一生でできないようなことをたくさん経験できました！

医療関係の仕事に興味がある人少ない人も想像の120倍楽しかったです！想像の120倍面白くて楽しかったです！

色々なことを知れて勉強になりました！医療関係の仕事の魅力に気づけるすごく楽しいツアーでした！ありがとうございました！ Revolution Apex すごかったです！ハイスマック

すごくいい体験ができました。とても楽しかったです！来年も絶対参加します！おしる参加させてください！！ツアーと企画してくださる方ありがとうございます！



消化器内科



内視鏡治療の実際

- ・医師からの説明
- ・シミュレーターを用いた内視鏡検査体験

リハビリテーション部



リハビリテーションの仕事って?

- ・装具歩行、歩行器歩行、車いす体験
- ・舌圧測定、失語症訓練体験

看護部

看護師さんの仕事って?

- ・人形を使用して、心音、お腹の音、肺の音、瞳孔チェック体験(正常時・異常時比較など)



薬剤部

薬剤師さんの仕事って?

- ・スライドショー・レクチャー
- ・薬局案内
- ・調剤体験
- ・お菓子を薬に見立てて分包機で分包



臨床工学部



臨床工学技士さんってどんなことしてるの?

- ・ICU見学・熱傷ベッド体験・機器の使用体験
- ・ジュースを透析装置にいれたら、どんな味になる?

臨床検査部



臨床検査技師さんの仕事って?

- ・輸血検査室で血液型判定体験
- ・生理検査室で心電図、超音波検査体験



画像撮影でどう写るの?

- ・診療放射線技師から説明
- ・一般撮影(レントゲン)で特長紹介
- ・CTで果物や魚を撮影してみよう
- ・MRIの磁力を感じてみよう

画像診断部

テレビの取材を受け、楽しそうに答える子どもたち。



写真中／緊張する子どもたちをほぐそうと企画課スタッフも頑張りました。写真右／2日目、最後のヘリポート見学では子どもたちもスタッフも最高の笑顔!

今月のちかもり食

エムサービス株式会社



病院体験ツアー ランチ 8月3日(木)・4日(金)

病院体験ツアー参加者へのランチを職員レストランで提供しました。開催前より、参加者の皆さんが好まれるメニューを考え、1日目は、天ぷら・稲荷寿司・冷たい素麺・抹茶ババロア、2日目は、ナポリタン・ハンバーグ&エビフライ・コーンサラダ・コンソメスープ・プリンを提供しました。食べ盛りの皆さんが来られるということで、おかわりも用意しました。

「天ぷらが美味しかった」「ナポリタンが好きです」と、とても喜んでいただきました。



Hospital tour

熱烈応援 昇格人事

リスキリング

近森病院 血液内科 科長
砥谷 和人 とぎたに かずと

この度、血液内科科長を拝命しました。
長年、大学病院で血液内科診療を担当してまいりましたので、当院での与えられた職務の遂行は可能かと考えていますが、少々古くなってきた医学知識は経験でカバーしつつ、新たな学び直し(リスキリング)も行って、精進していく所存です。

【専門分野】

造血器腫瘍に対する薬物療法、
造血幹細胞移植、輸血療法

【認定資格】

- 日本血液学会専門医
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本輸血・細胞治療学会認定医
- 造血細胞移植認定医

New face

ニューフェイス

- 1 所属
- 2 出身地
- 3 最終出身校
- 4 卒業年次
- 5 趣味など

砥谷 和人

とぎたに かずと

- 1 血液内科 科長
- 2 岡山県高梁市
- 3 高知医科大学
- 4 1992年
- 5 最近の趣味は

ジョギング、水泳、アナログレコード鑑賞、キャンプです。バス通勤でラジオや落語を聴いています。



近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

まずは患者さんのことを知ってから

早くも入職してから5ヶ月が経ちました。初めの1ヶ月間は、カルテの使い方に苦勞し、PHSが鳴ると肝を冷やし、救急外来を担当する日はどんな主訴の患者さんが来るのか、ちゃんと自分で診断できるのかと不安いっぱいでした。

ですが先生方や他職種の方が、わからないことは優しく教えてくださり、間違っていることはしっかり指摘してくださるので、少しずつできることが増えて充実した毎日を過ごしています。

5ヶ月間で総合内科、循環器内科、麻酔科

を研修して思うことは、周りの方々は私より多くの患者さんを受け持っているのに、私より患者さん一人一人の病態・背景などを把握していることです。だからこれから起こり得ることの予想ができ、緊急のことにもすぐ対応できるのだと思います。

私も周りの方のレベルまで患者さんのことを把握し、患者さんやご家族、スタッフの方にとってプラスになるような働きができるよう、これからの研修を頑張ります。

ハッスル研修医



初期研修医1年目
竹森 菜咲 たけもり なさ

歳時記 -特別編-

「祭三代・IKU!」で よさこい祭りに参加しました!

近森病院 呼吸器内科 部長 中岡 大士
なかおか ひろし

縁あって「祭三代・IKU!」で

今夏は台風6号の影響が心配されましたが、よさこい祭りの記念すべき70周年が4年ぶりの通常開催ということで各チームが意気込むなか、わたしは「ちかもり」で一緒に踊っていた同志4名と一緒に、縁あって、これまで「ちかもり」の振り付けをしてくださっていた田村千賀先生が生んだチーム「祭三代・IKU!」のメンバーとして参加しました。

病院の応援に感謝

地方車のパネルに近森会グループの名が燦然とあるとおり、近森病院に協賛をいただきました。また、本祭ではチーム全員の避暑と休憩のために管理棟会議室を開放していただき、「祭



筆者: 左から2人目

三代・IKU!」一同は感動と感謝のきもちでいっぱいでした。

精一杯の努力も及ばず、受賞チームになれませんでした。お子さんから祖父母までの参加型をテーマとする「祭三代・IKU!」を通じて、医療関係者ばかりではない、よさこいが生む人との繋がりやお祭りの楽しさの本質をたくさん感じる事ができ、大いに盛り上がる充実した夏でした。

チーム「ちかもり」で踊れる日まで

まだ新型コロナウイルス感染症や戦争や災害などが闇を落とす世の中ですが、応援して下さった近森病院の関係者みなさまに感謝申し上げるとともに、よさこい大好きメンバーで近い未来に「ちかもり」を復活させる活動をしていきたいと思ひます!

退職

ごあいさつ

近森リハビリテーション病院 シニア看護師長 増田 千恵

ますだ ちえ

在職 1977.4.1~2023.8.19
(パートで現在も活躍中)



46年間ありがとう

1977年4月 准看護学生として

1977年4月1日より准看護学生として近森病院に就職し、准看護師で勤務しておりましたが、周りの勤めもあり県立総合看護専門学校に学び、1993年看護師免許を取得、今年8月無事定年を迎える事ができました。

印象深い石川誠先生の着任

就職して46年と5カ月の中で一番印象に残るのは、石川誠先生が近森病院にリハ医として来た事です。それまでは「リハビリテーショ



ひろっぱ
1996年
9月号より

「千恵さんの知恵袋」に助けられて

近森リハビリテーション病院 看護部長 寺山 みのり

てらやま みのり

※集合写真前列右から4人目

ナイチンゲールの思想を増田さんより学ぶ

増田さん、ご定年おめでとうございます。
今の私たちがここに在るのは、増田さんが近森会に「リハ看護」の種をまいてくれたからです。
増田さんが当時の付き添い看護を撤廃した時代を振り返るときには必ずナイチンゲールが登場します。寝たきりの患者さんの生活環境を整えると、患者さん自身が回復する力を発揮して元気になっていく、尊厳のある生活を取り戻す、そんな姿を目の当たりにして「今、ナイチンゲールの思想を実践している!」と看護を実感したそうです。

思いやりと誠実さでできている「千恵さんの知恵袋」

時代を経ても看護の基本は変わらず、私たちは増田さんの長年のリハ看護の経験から成る知識と技術に助けられています。私はそれを

ン」という言葉は知ってはいましたが、殆ど無知に等しくリハ看護について知る由もなかったからです。彼や彼に付いて来た虎ノ門の看護師さんから教えて頂いた事は、今も記憶に鮮明に残っています。

それまでなら寝たきり、寝かせきりの患者さんがどんどん動けるようになり退院していきました。本当にリハビリの素晴らしさを実体験できた事です。

30年近い感染対策委員会の活動

それともう一つは、近森病院の感染対策委員会のメンバーとなり30年近く感染対策に関わって来た事です。ここ4年間は新型コロナウイルス感染症に翻弄されっぱなしで、職員全員を巻き込んだ対策には身も心も疲れ果てましたが、今日まで続けることができたのもすべて周りの皆様のおかげと感謝するばかりです。

8月19日で正職員としては退職となりましたが、今後も週3~4日契約職員としてリハ病院で勤務しています。今後とも宜しくお願い致します。



「千恵さんの知恵袋」と呼んでいます。

この知恵袋は思いやりと誠実さでできていて、匠の技が詰まっています。
増田さんは日常のちょっとした場面でその技を惜みなくスタッフに伝授しています。私も知恵袋を頼りにして、部長として悩んだ時、それが難問であるほど、同志であり大先輩の増田さんに確認します。彼女の言葉は核心を突き、シンプルでブレません。いつも基本に立ち返ることができます。

リハ病院のお母さん

そんな増田さんは職種を問わずリハ病院のお母さんのような存在です。「ここは私の家みたいなものよ」と言いながら、人からは見えづらく誰かがやらなければいけない仕事を発見してはスタッフの働く環境を整えてくれています。増田さんへの感謝は尽きません。今後の人生に幸多いことを願っています。



リレーエッセイ

ひと夏の新星 診療支援部 診療情報課 吉原 悠衣

よしはら ゆい



この夏は4種類の生き物が次々と我が家へやってきたにぎやかな夏でした。
1種類目はメダカ。1カ月半ほどで全滅したのですが、メダカとは対照的に育った水草を適当に容器に浮かせていたところ、その中で9匹の赤ちゃんメダカが誕生！赤ちゃん用の餌を買いにホームセンターへ行くと、1匹2,500円で売られるクワガタを見つけ、すっかりメダカどころでなくなった娘。買ってもらえないと悟り、ふてくされモードの娘を連れ、田んぼのあぜ道で捕まえたのが2種類目のヌマガエル。「この子は絶対連れて帰る!!」と活気を取り戻す娘の横で、眉間にしわを寄せた私が見つけたのが3種類目のモンシロチョウの卵。その晩「クワガタも飼ってみたいな」とつぶやいていた娘は、次の日、見知らぬ親子から譲ってもらったのだと4種類目となるヒラタクワガタを連れて帰ってくるのでした。

次々に興味の対象が移る娘に次は何を飼うのか聞くと「次は鈴虫!その次はカメレオンで、その次は……!」いっきの新星はまだ増えそうです。



私の趣味

ものづくり

医療福祉部 ソーシャルワーカー

岡田 葵 おかだ あおい



ものづくりと言っても本格的ではないのですが、友人と〇〇体験と名のつくものに参加し、振り返ると毎年何か1つは“ものづくり”を行っています。これまで機織りやガラス工芸、陶芸などに行き、ランチョンマットやグラス、写真立て、食器などいろいろと作ってきました。

毎回どんなものを作りたいか具体的なイメージを持たずに行き、どんな色や形にするか悩む時間が長くなってしまいますが、それでも普段体験できないことを行う緊張感やどんなものが完成するかやってみないと分からないワクワク感は、何度やっても楽しいと感じます。

完成したものは私っぽいねと言われることが多いのですが、私の好きが詰まっているのでどれもお気に入りです。

今年はまだものづくりに行っていないので、何を作ろうか友人に相談してみようと思います!



FREE

私の〇〇

まるまる

〇〇にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「お菓子作り」
～KKパウンドケーキ～

総務部 秘書課 品原 宏昭

しなはら ひろあき



皆さん、お菓子作りしてますか？
お菓子作りは敷居が高く感じる人も多いですね。そこでおすすめるのが「KKパウンドケーキ」です。

道具

- ・マグカップ (以下カップ)
- ・ビニール袋
- ・18cm焼型



材料

- ・薄力粉(カップ1)
- ・ベーキングパウダー(小匙1程度)
- ・砂糖(カップ半分)
- ・卵2個(牛乳や豆乳ならカップ半分)
- ・溶かしバター(市販の200gバター半分。サラダ油ならカップ半分)

作業

- ①ビニール袋に薄力粉、砂糖、ベーキングパウダーを入れて振り混ぜ、残りの材料を加えて揉む。
- ②全体が混ざったらビニール袋の端を切って焼型に流し入れ、180度に予熱したオーブンで25分焼けば完成。

ラップで包んで一晩以上置くとしっとり美味しくなります。揉む時に、ドライフルーツやナッツ、ココア、紅茶、お酒などを加えてアレンジしてもOK。材料の配合は自由度が高いため、お好みの配合を探すのも楽しいですよ。

因みに「KK」とは「細かいことは気にしない」の略です。



看護学校通信



夏休みのオープンキャンパス

第2回 / 2023年7月29日 第3回 / 8月20日

近森病院附属看護学校 事務長代理 中山 潤一 なかやま じゅんいち

高 校の夏休みにあたる7月29日(土)、8月20日(日)に2回のオープンキャンパスを開催し、延べ58名の参加がありました。参加者へ在校生の声を届けられるよう、はじめての試みとして、学校紹介や入試ガイダンスについて教員による紹介だけではなく、学生が体験した入学試験や現在の学生生活について、座談会形式にして報告をしました。

その後は、看護技術体験や在校生による学内見学ツアー、参加者が在校生に直接質問できるフリートークを行いました。

参加者アンケートでは、「施設・設備が充実している」、「実践に近い知識が身に付けられそう」という感想を多く頂きました。

近森で学ぶ。



近森病院附属看護学校

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

2024
10/22 SUN 3/23 SAT

※感染予防の観点から事前申し込みをお願い致します。

<https://www.chikamori-hns.com/>

開催時刻や当日の体験メニューはホームページをご覧ください。



近森看護

088-871-7582 ※受付9:00~17:00 平日のみ

電話交換室が移動しました 2023年8月28日~

以前は約11.1m²の部屋で、日中は4~5名で電話対応していましたが、人事課跡の約28.7m²の広い部屋へ移動しました。これからもよろしく願います。



編集室通信

幼少期はWILL、ここしばらくはTSUTAYAにお世話になっていましたが、最近は専らNetflix、Amazon Prime Video、YouTube。最新話題作から「おすすめ」に採られた昭和平成邦画などを一人楽しんでます。視聴後は感想研究サイトを読み、再度視聴。休日だけ、1日が40時間だったらなと思う秋この頃です。 須

診療数

令和5年8月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 17,155人
新入院患者数 1,001人
退院患者数 960人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 12.61日
地域医療支援病院 紹介率 97.86%
地域医療支援病院
逆紹介率 324.47%
救急車搬入件数 617件
うち入院件数 308件
手術件数 598件
うち手術室実施 358件
うち全身麻酔件数 244件

Follow me!



臨床栄養部 Instagram 始めました

2023年6月~



@chikamori.nutrition



献血

キャンペーン

ご協力
お願いします!

10/19(木)

12:30~17:15

場所 近森病院 総合受付
玄関前駐車場

中越 太一

Taichi Nakagoshi

高知ハビリテーリングセンター 副センター長
作業療法士 / ジョブコーチ
ソーシャルフットボール
「CitRungs Tossa(シトラングストッサ)」監督

聞き手 / ひろっぱ編集部

こんがり肌に引き締まった体型の男性がニコニコと、玄関で自分たちを待っていた。「この日焼けは、昨日サッカーの大会の運営サポートをしていて、しあがったんです」と自己紹介。

高知ハビリテーリングセンターで、西岡センター長の右腕として活躍する中越副センター長の職種は作業療法士(OT)である。現在はその枠を超え、管理業務や児童支援、就労支援が業務の多くを占める。また、ソーシャルフットボールでは自らのチームだけでなく四国選抜の監督も務めている。さらに、近年はハビリの新分野となる食品開発に挑戦したり、地域との交流活動に参加したりと持ち前のフットワークの軽さで活動の域をどんどん広げている。

PTに憧れ受験するも…

小2からサッカーを始め、高校も体育コースに進学する体育会系。初めは身体に関わるPTに憧れ、専門学校で理学療法科を受験するも不合格。辛うじて受かった作業療法科へ進学したが勉強に身が入らず国家試験も



最近の趣味はピザと焼き鳥作り。ピザは、ハビリの近所の自治会長に教えてもらい、練習中。焼き鳥は馴染みの店から串肉を分けてもらい炭火で焼くこだわりよう。「家族が美味しくそくに食べてくれるのがとても嬉しいんです」。



互いに
「気に掛け合える」
コミュニティを
みんなできつくりたい

失敗(2回目に合格)。「先生に『解答が分からなければ鉛筆(サイコロ)を転がせ』と言われて言う通りにしたのに…」と冗談めかす。

今でこそ、日本作業療法士協会のスタッフをしたり、何度も講師に呼ばれたり活躍だが、OTのやりがいは働き始めてから実感したようだ。「講師をしていても今の学生さんは志高くて、昔の自分が恥ずかしい」と照れ笑う。

人生を変えた恩人

中越さんのフットワークの軽さや考え方に影響を与えたのは、前の職場の先輩、仲地宗幸氏(※)だという。「変わった人なんです。自分のことを『地域耕し人』と呼んでいます。仲地さんと話す時の患者さんはみんないい顔なんです!なので僕も真似しようとしたんですが、彼から『僕にはなれん。太一にしかできないことをしろ』と言われて。僕らしさを探求するようになりました」。

そして、地域で広く働くOTになりたいと思った時に、相談の電話をかけた相手が、精神科デイケアでの活動などを通じて知っていた西岡センター長だった。「センター長の『願えば叶う』という言葉にはいつも背中を押してもらっています。それに、“長年の”一番黒子に徹するようなどころもあって。みんなをほっとけないんでしょね」と笑いながら話すところに、ハビリの陽気さやチームワークの良さがにじみ出ている。

ソーシャルフットボール「CitRungs Tossa」

ライフワークは、高知唯一の精神障害者フットサルチームの活動。メンバーは、13歳から70歳と幅広く、楽しくも真剣に取り組ん



でいる。「外出しづらくてもこれには参加する人がいたり、地域のサッカー好きの少年も練習に来たり、誰でもウェルカムなチームです。創部の頃は選手を迎えに行くなど気遣いしましたが、今は余計なことをし過ぎないようにしています。仲間として接しているので、障害とか関係なくズバズバ言うし冗談も飛ばしますね。息子も小さい頃から参加していて、ただ一緒にプレーを楽しんでいるのは親としても嬉しいですね」。

障害がある人もない人もつながる地域社会の一員として

ハビリでは、『OTさん』ではなく『中越さん』と呼んでくれるのが嬉しいという。「障害関係なく、みなさんそれぞれ『生きづらさ』や『困りごと』がたくさんあることに気づきます。そんな時に躊躇なく助け合いたいなど。僕ができることは手伝うし、逆に助けてもらうこともあると思うので。『めんどろだなあ』ということも、みんなで文句を言いながらおもしろいと捉えて、興味関心を持つことで、お互いへの理解が進む。そんな地域で暮らすことが僕の理想です」。口調は軽やかながら、心にズシンと響いた。

※仲地 宗幸氏…合同会社キングコング代表社員。コンセプトは「めんどろさいはおもしろい」。
詳しくは、<https://kingkong.okinawa/>

